

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|---------|-------------|
| 事業所番号 | 409330079 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 北筑前福祉会 | | |
| 事業所名 | 宗寿園グループホーム愛々 | | |
| 所在地 | 福岡県宗像市稲元5-2-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年10月19日 | 評価結果確定日 | 平成27年12月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社アール・ツーエス | | |
| 所在地 | 福岡県福岡市博多区元町1-6-16 | TEL:092-589-5680 | HP:http://www.r2s.co.jp |
| 訪問調査日 | 平成27年11月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

同敷地内にある福祉センター(同法人運営)の行事に月1~2回程度参加し地域の方達との交流の場となっています。又、周囲には学校・体育館・公民館などあり地域の自治会に加入し広報の配布・地域の方達の協力で行事への参加機会も多く地域に密着した事業所です。家事活動を主に個々の残存機能を生かし理念である、食を楽しむ為に献立から考え買い物、食事作り、片付けまで、利用者の方達が出来る事を積極的に支援しています。週に2~3回地域のスーパーに買い物に出掛けたり近所への散歩やドライブなど外出する機会を増やし心身の活性化に努めています。入所しても、自宅・御家族との繋がりを大切にしています(一時帰宅・外出、外泊)又、年2回家族会を開催しバスハイクには入居者・御家族・職員との交流の機会も多く、信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「宗寿園グループホーム愛々」は、宗像と福津で複数個所の介護施設を運営する法人の持つ、1ユニットグループホームで、デイサービスセンターなどと併設された建物の2階に位置する。敷地内には福祉センター、近隣には体育館や運動場もあり、地域資源に恵まれた環境下にある。法人系列事業所との研修会や事例発表会もあり、よく情報も共有されている。福祉センターでの敬老会や慰問なども頻繁に開かれ、外出の機会も多い。入居者も能力を活かして、日常生活の中で、掃除や調理などにも積極的に関わっている。理念の合言葉にも挙げられる、美味しい料理や思い出作りに取り組み、入居者はいつも笑顔で元気に過ごし、ここ一年の退去もなかった。今後も地域福祉を支える事業所として活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | | |
|-------------------|-----|---|---|--|---|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ○经营理念である「共生」を基本とし「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。 | 社会福祉法人としての経営理念と事業所独自の運営方針があり、事務室、パンフレットにも掲載され、理念を元にして「思い出作り」「美味しい食事」「健康で楽しく」の3つを具体的な合言葉として掲げている。地域との交流も持ちながら、行事などにも積極的に参加し、委員会活動時には唱和もしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ○近隣の店への買物を行っている。 ○隣接する老人福祉センターを利用する事により地域住民と接する事が出来る。 ○地域の行事見学(運動会等) ○地域の自治会への加入(GHとして) ○小学生下校時の見守り、声掛け | 近隣小学校の学習発表会の見学に行っている。施設のすぐ横に市民体育館、広場もあり、近隣の散歩時に挨拶を交わしている。事業所の行事の際にはボランティアにも来てもらい、下校時の見守りは職員と入居者が一緒になってしている。地域情報は回覧板や広報誌などで仕入れ、敷地一体で行う法人の夏祭りは毎年盛大に行われている。 | 自治会に加入しているが、自治活動の参加までには至っていないので、グループホームとしてさらに地域交流が深まっていくように、検討がなされていくことにも期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ○法人主催の事例発表の場があり地域の方や、他施設の参加も多い ○他事業所(施設)見学会の実施 ○他施設の紹介や、情報を提供している | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ○推進委員さんよりの助言、地域の子供たちとの関わりの橋渡し(民生委員、自治会長さんの協力) ○声かけにより小学校の体力測定、学習発表会の見学に行っている。 | 会議には民生委員、区長、市職員、家族代表などが参加されており、ホールで開催することで入居者も気軽に参加できる。地域情報を頂いたり、入居者状況、行事報告、ヒヤリハット報告などを行っている。市からの情報や助言から、下校時の見守りや、小学校での行事見学の実施にもつながった。議事録は年度末の家族会の際に報告し、同日には系列の事業所見学会も催している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ○運営推進会議、地域密着会議を利用しながら協力関係を築いている。 | 運営推進会議には毎回参加してもらい、2ヶ月ごとの地域密着事業者連絡会を市が運営し、そこでの交流もなされる。市への相談事などは所定のFAX用紙を使ってやりとりし、介護申請時も窓口を訪問している。年4回発行の法人だより「あんず」は毎回お渡ししており、何かあった際の相談もしやすい。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ○研修会等に参加し意識を高め、日頃より話し合いをし、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 1, 2Fとも日中は施錠しておらず、玄関はセンサーで管理しており、自動ドアは上部のボタンか手動で開けられる。落ち着きのない方がいる時は見守りや付き添いで対応し、現状身体拘束の事例もなかった。法人内での研修が毎年あり、事業所内で資料回覧も行う。 | |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ○支援のなかで、気付いた事があれば、その場で話し合うようにしている。 | | |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ○研修会、講習会に参加し知識を深めるなどの取り組みを行い、必要とする方には、すぐに対応出来るように支援体制をとっている。 | 法人全体での内部研修のほか、外部研修にも参加しており、参加者が内部での伝達も行っている。現在はいないが、昨年までは成年後見制度を活用している方がおり、職員も対応を通して一般的な知識を持っている。対応が必要な際には主にケアマネージャーが担当する。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ○見学、電話での問い合わせが気軽に来るように窓口を設けている。利用者、家族等が不安や疑問に思う点については、十分な説明を行ない理解、納得を得た上で契約に及んでいる。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ○運営推進会議を年6回開催し家族に参加して頂き意見、要望などを伺っている又は、家族会を年2回開催し懇親会を兼ねて意見の交換会もされている。頂いた要望、意見には迅速に対応している。玄関に意見箱を設置している。 | 年2回、秋と春先に行われる家族会への家族の参加も多く、ほぼ全員が参加されている。面会時にも気軽に一緒に食事をしてもらったりと運営に協力的で、意見もその際に直接伺っている。毎月事業所からのお便りで行事の予定や、日頃の様子を写真付きで発送し、外部評価時のアンケートの回収率も高かった。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ○毎月のミーティングや年1,2回のフリートーク等を実施し意見を述べる機会を設けている。常勤、非常勤一緒に月担当を決め行事等の企画にアイデアを出し合い全職員になげかけている。 | 毎月のミーティングには時間を決めて全員が出勤して参加し、幹部会内容の伝達、業務連絡、入居者情報の共有などがされている。系列法人合同で、食事会形式の交流会もあり、理事長など上層部にも意見を挙げられる。ミーティングでも日常のレクや、個別ケアなど話され、レクの充実を図り、入居者の能力の掘り起こしにもつながった。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ○年2回自己評価の場が設けられており各自、目標を掲げ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにつとめている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | ○平等な人選が行われており、差別等はない。採用された職員は本人の持つ能力、特技等を發揮出来る場をもち活躍してもらっている。資格取得、研修等に積極的に取り組んでもらい質の向上にも力をいれている。 | 異動により男性職員は少ないが20～50歳代の職員がおり、初任者研修の実習受け入れからそのまま入職する職員がいたり、パートから正社員への昇格制度もある。ベテランと新人の職員も協力してケアに取り組み、各種の委員会活動などで能力や特技を生かし、フラワーアレンジメントやハンドマッサージなどが出来る職員もいる。希望休暇、休憩時間、場所の確保もなされ、研修案内や参加によってスキルアップにも努めている。 | |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | ○法人の基本理念に「人権を尊重し、人としての尊厳の確保」を掲げており、ご本人の人権を尊重し尊敬の念を持って接している。職員に対しても人権教育や研修に参加してもらい事に積極的に取り組んでいる。 | 法人での全体研修で人権に関する研修も行き、今年市の人権対策課の職員を講師に招き「人のやさしさ、人とのつながり」をテーマに行った。事業所からは2名が参加し、内部でのミーティング時に伝達も行った。外部研修も機会がある時には参加している。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ○随時、研修や講演会の情報を掲示、回覧し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。 ○資格取得に対する援助がある。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ○2か月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。 ○勉強会にも積極的に参加している | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ○管理者、ケアマネージャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話しをするようにしている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ○家族からは、十分に話しを聞き現在の状況を把握すると共に、思い・訴えを受け止めるように努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ○状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行っている。 ○利用者を理解する為に、カンファレンスを密に行っている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ○一方向の関係で支援するのではなく、利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にして関わっている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ○家族からの思いを伺いながら、職員の思いを伝え、一緒に本人を支えていくという協力関係を作っていくように努めている。 | | |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ○電話・手紙・年賀状など、良い関係を継続出来るように支援している。 ○遠方のご家族とFAX、メールでやり取りしている。 ○外出時等家族の協力で、近所の方と茶話会など楽しませている | 今年で百歳を迎える方が、県外遠方の家族の自宅まで泊りがけで訪問され、準備や引継ぎなどで支援した。ほぼすべての家族も協力的で面接機会も多く、知人や友人の来訪もなされている。事業所内で食事を一緒にすることもある。携帯電話を持っている入居者もあり、手紙の発送の取次なども援助している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ○家事活動や外出の機会に体験や思いを話していただき関わっている。外出・買物・レクを一緒に行う事により良好な関係を築いている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ○転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ○担当者会議や会話などを通し暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の言動を観察、家族と情報交換しながら検討している。 | 全入居者に対し、入居時からセンター方式を活用したアセスメントを行い、家族にも記入してもらっている。各担当を決め、入居後も新しい情報があれば追記し、ほかの職員も回覧、記入を行っている。見直しは変化があった際に随時行い、意思疎通の難しい方には、担当者が中心となってアプローチ方法を変えたり、表情の変化を見たり、家族からも意向を聞いたりして本人本位のケアを目指している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ○入所時にはセンター方式の用紙に家族に記入していただいている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ○職員間で情報交換を行いながらバイタルチェックや活動、食事量、排泄等を通して変化がみられていないか把握に努めている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ○月1度のミーティング等、又適宜カンファレンスを行い、各利用者の状態、状況話し合いその結果をふまえてケアマネが計画を作成している。必要に応じて家族と担当者会議を実施している。 | 担当制で、各職員が中心になってアセスメント、プラン素案作成、モニタリング、支援経過記録などを担当しており、プランの見直しも半年ごとに行っている。直近のケアプランと介護記録を同じファイルに綴じこむことで全員の把握ができるようにしており、毎月のカンファレンスでも必要時には看護師も参加し、事業所内で情報を共有している。 | |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ○ケース記録の他ノートでの伝達、モニタリングのほか必要時(心身の変化)にはカンファレンスを行い見直しに努めている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ○一人ひとりのペースに合わせたり、その日の天気により外出など利用者の状態を見ながらその都度対応を考え取り組んでいる。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ○外出(買物、散歩、地区の行事見学)を行いながら残存能力を活用する事に努めている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ○従来からの本人、家族とかかりつけ医との関係を尊重し、受診を継続していただいている。状態が変化した場合には家族へ報告し主治医へ相談していただいている。発熱や食欲不振・便秘など体調不良時には家族へ報告、受診を通して医師へ相談を行っている。状態によって薬に関する内容が含まれる時には、直接相談し指示を受けている。認知症による精神症状等が目立ってきた際、家族と相談して専門医への受診を勧めている。 | 元々のかかりつけ医も希望すれば継続が可能で、外部のかかりつけ医の場合は原則家族に通院介助してもらおうが、事業所から支援することも多い。必要な際には看護師が同行し、定期受診時も家族に状況報告をしている。不調の際にはすぐに病院にも連絡し、職員間では連絡ノート、申し送りでも共有している。訪問歯科の提携もあり、希望すれば毎週口腔ケアも受けられる。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ○看護師(併設DS・法人本部)へ連絡・相談・報告を行い、連携を図っている。 ○介護職員と連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ○入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密にとり、早期退院に向けて話し合いを行っている。(カンファレンス参加) | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ○医療機関と連携を図り、事業所で出来る範囲での対応を行っている。 | 基本的には看取りは行わない方針で、家族にも説明し、重篤化の際には可能であれば関係施設や医療機関への紹介を行っている。今後は条件が整えば、ターミナルケアも検討しており、近々、系列特養でのターミナルケアの研修にも参加を計画している。 | 将来的なターミナルケアの受け入れに備え、提携機関や訪問看護などの連携体制や、定期的な研修受講などが進められていくことにも期待したい。 |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ○緊急時のマニュアルを作成し、目のつくところに用意している。 ○定期的に勉強会に参加し実践している。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ○避難訓練を実施している。消防署、地域の消防団の方々と共に夜間想定避難訓練を実施している。 | 年2回消防署立ち合いの防災訓練があり、内1回は併設事業所合同の日中訓練、1回は事業所単体で夜間想定訓練を行っている。運営推進会議のメンバーにも案内して、夜間想定時には参加もしてもらった。スプリンクラー設置や備蓄物もあり、2Fからは外階段による避難、入居者ごとのADL表も準備している。 | 運営推進会議との同日開催などで、取り組みを公開したり、地域防災訓練にも参加することで、さらに協力体制が築かれていくことも期待される。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ○尊敬の念を持ち、その方に応じた声掛けを各自、実践している。又、利用者の立場に立って考えプライバシーが守られるよう気をつけている。 | 入居者それぞれに合わせた言葉かけを心掛け、方言で話しかけたり、おだやかに過ごせるように日々配慮している。親しみながら相手を尊重したコミュニケーションを図り、職員に注意する点などは個別に指導したり、申し送りで話し合っている。排泄、入浴介助時の羞恥心にも留意し、個人情報の利用で、事例発表時などは書面で同意を得ている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ○出来るだけ1対1で話が出来る時間を作り、本人の思いが伝えやすい場を作っている。選ぶことが難しくなってきた方へ2つの中からどちらがいいか尋ねたり工夫している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ○一人ひとり体調やペースを見ながら休憩をとったり、家事を手伝ってもらったりなどしている。どのように過ごしたいかなどは本人に聞いておらず、今後は本人に確認しながら一緒に一日の過ごし方を考えていきたい。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ○出来るだけご自分で整容してもらえよう鏡の前に立っていただき、髪をとかしていただいている。毎朝お化粧の声掛けをし、おしゃれに対しての意識を持っていただいている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ○全利用者の参加は困難であるが、個々の出来る事を職員が把握して、食事の準備、片付けに参加して頂いている。又、季節感のあるものや、秋刀魚や鯛のアラ炊き等在宅時と変わらない物を提供し、味覚や懐かしさを回想し、満足して頂いている。月1～2回程個々の好みに応じて外食を行っている。 | 毎週、日曜日には調理レクを行い、買い物なども一緒にしている。平日は昼は施設厨房からの配食、朝夕は職員による調理をしている。法人の栄養士がバランスに考慮したメニュー、食材管理を行い、入居者も出来ることを積極的に手伝っている。調査時も仕出し弁当風に見栄えのする盛り付けをしており、バラエティ豊かな副菜を職員も一緒になって和やかに食事を楽しまれ、完食率も高かった。 | |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ○食事・水分共に摂取量をチェックし記録している。食欲のない方、摂取量が少ない方へは、ご本人が食べ易い物、食べれる物を提供している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ○ご自身でできる方以外はリビングの洗面台に歯ブラシを置いて毎食後声掛けから、見守り、一部介助の方まで対応している。義歯装着者には外していただきブラッシングや夜間入れ歯洗浄剤にて除菌洗浄している。個々の歯ブラシ等も毎日殺菌洗浄している。○週に1回訪問歯科を利用し口腔ケアに努めている | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ○出来る限りトイレで排泄が出来るように誘導している。(必要に応じて排泄チェックを行っている)夜間も必要に応じて声掛け実施 | 全員分の排泄チェック表があり、特に経過記録が必要な方には個別に長期的な管理もしている。入退院時には状態を把握してそれぞれにあったパットなどの提案をしている。自室にトイレがあり、自分のペースで夜間もトイレ排泄を基本に行っている。こまめな誘導によってトイレ排泄ができている方も多い。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ○お茶・オヤツ・食事作りにオリゴ糖を使い便秘の改善をしたり、工夫している。 海草寒天ゼリーも提供している。 ○歩行する機会を作るよう努めている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ○「毎日入りたい」と希望のある方は、毎日入浴され、出来る限り本人、家族の希望を聞くようにしている。 | 基本的には週3回、昼からの入浴で、リフト浴槽と、広めの普通浴槽がある。洗い場も広いが、個浴可能で、窓も広く、開放的な造りでゆったり入浴が楽しめる。希望すれば毎日入ることもでき、季節の行事浴なども行う。必要な方には看護師が皮膚観察も行い、健康管理の場としても役立っている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ○ケアプランに準じて休息の必要な方へはその都度休息を促している。その他の方に対しても活動の後や本人の様子を観察しながら休息を促している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ○申し送りカルテ等を職員が把握して理解に勤めている。○利用者ノートを活用し、主治医からの指示や報告を周知、把握している。○薬情ファイルを作り個々の内容、変更など確認してから与薬している | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ○それぞれの好きな事を職員が把握して趣味などが継続的に行えるように支援し、活動を地域の広報誌に掲載して、ご家族や地域の方にも知ってもらうことで本人の意欲を高めている。 | | |

H27自己・外部評価表(宗寿園GH愛々)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ○「買物に行きたい」と希望があればその都度出掛けられるようにしている。又、ご家族にも外出をお願いするなどして可能な限り外に出れるように努めている。 | 週一くらいでドライブに行くほか、家族とも相談して個別の外出、買い物、映画館に行く方もいる。毎年、家族とも合同のバスハイクもあり、毎月の行事でも外食や地域のサロン活動に行ったりしている。日常的にも敷地内は車も通らず安全で、車いすの方も同様に楽しんでいる。意欲低下のある方も働きかけて同じように外出機会を持たせている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ○数名だが、ご自分でお財布を持ち、ご家族、職員と一緒に管理している。外出時には、ご自分で支払いされ出来る事を継続していただけるように支援している。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ○電話の希望がある方は電話される。FAの希望、本人の要望から携帯を所持している方も居られ、時折ご自分で電話をかけることもある。遠方のご家族には手紙を出されたり届いた手紙の返事を書かれたりしている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ○不快感や混乱等をまねくような空間にしないように努めているが、生活感にはまだ乏しい面もあるかと感じる。季節に応じたディスプレイ(利用者や制作したもの)をリビングに装飾している。 | 入って正面にあるホールを中心に両側に廊下が伸び、東西に居室が配置される。東向きの窓からの眺めや採光もよく、ホールで暖かに過ごされる。廊下も車いす同士ですれ違えるほど広く、各所にも窓があるため端でも明るい。ホールには楕円形の大きなテーブルが据えられ、レクや食事の際は全員でも座って和やかに過ごされていた。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ○居室でくつろぐ時間を大切にす為目隠しとして入口に暖簾などしてプライバシーの配慮に努めている。 ○日当たりのよい場所に少人数で楽しめる場所を作っている | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ○使い慣れた物(タンス等)を持ち込まれていたり、冷蔵庫、テレビを設置されている方も居る。安全面を考え家具を動かしその都度、模様替えをおこなう。 | 大きく開く引き戸で、各居室にはトイレや、洗面台、クローゼットが備え付けられ、キャスター付きの介護ベッドによって好きな位置にレイアウトを変えることができる。トイレに近い位置にベッドを置くことで、夜間でも安全にトイレへの移乗も行える。明るい木調の家具で、さわやかな風が流れている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ○理解の出来なくなった方には目に止まる程度の張り紙をしたり、ボタンなどの横に説明を少し書いたり工夫しながら理解しやすいようにしている。必要に応じてスケジュール表等を作成している。 | | |